



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

## 秋こそキャンプ

著者	益田 博
雑誌名	チャペル週報
号	16(2012.10.1-10.5)
発行年	2012-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/10362">http://hdl.handle.net/10236/10362</a>

# 秋こそキャンプ

益 田 博

キャンプはこれからがとてもいい季節です。夏休みの定番ですが、蒸し暑くて、やぶ蚊なども多く、過ごしにくいのも確か。秋なら空気は爽やか、気になるムシたちも少なく、野外でいるのが快適なシーズンです。仕事柄、最盛期である夏場に多くの利用予約を頂くのですが、「夏じゃなくて秋のほうがいいですよ」と余計な一言をかけたぐらいです。

そんな秋のキャンプでお勧めなのは「たき火」。街の暮らしでは、たき火などできないし、台所には調理器具は電化製品だけという暮らしも当たり前。火をさわる機会が本当に少なくなりました。

でも、枯れ枝を集め慎重に火を起こしていると、普段使わない感覚が刺激され、自分の中の野生が目覚めていきます。そして暗くなった森の中で仲間とたき火を囲んでいると、時間がたつのを忘れ、まるで映画の1シーンのようです。

一方、ファッションでもグッズでもアウトドアの世界はおしゃれになり、質量ともに豊富になりました。家財道具すべてを持ち込むようなキャンプもいいですけど、シンプルな生活、不便さを楽しむキャンプがいいですね。余分なものを取り去った暮らしの中でこそ、本当に大切なものが分かるというものです。また、こういった不便さを楽しんで工夫する経験があれば、非常時に役立つことも多いと思います。

今は整備されたキャンプ場が海から山までたくさんあります。また、ファミリーや仲間だけでなく、野外コンサートから社員研修、ウェディングや女子会までキャンプでやってしまう時代です。人とのつながりを深め体験を通じて学ぶ場として、自然の持つ力が見直されてきているのでしょう。

千刈キャンプはそういった自然の力を感じる場です。5万㎡の里山の自然と約150人までの宿泊研修機能に加え、指導スタッフが常駐するなど、大学が保有する施設としては全国でもユニークな資源を持っているのが千刈キャンプの特色のひとつです。自然の中で時間に縛られない生活空間を共有することで、研究はもちろん、仲間とのコミュニケーションを深めることができます。

10月は自然の中へ出かけるには絶好の季節。是非アウトドアに挑戦してみてください。道具もないしやったこともないという方は、手ぶらでも大丈夫な千刈キャンプへどうぞ。皆様のご利用をお待ちしております。

(千刈キャンプ事務長補佐)